

保健師の看護協会入会状況に関する調査 報告書（概要版）

北海道看護協会 保健師職能委員会

2023年2月

I 調査の概要

1 調査の背景

新型コロナウイルス感染症感染拡大等、新たな健康課題が次々と積み重なる中、私たち保健師へ求められる役割は増加の一途をたどっている。

このような中にあり、看護協会は、社会の状況変化に応える保健師の人材育成や看看連携により健康課題をもつ全ての住民に支援を届ける仕組みづくり、職場は異なっても思いを共有する仲間のつながりを大切にした活動を続けているところである。

北海道看護協会保健師職能委員会においても、保健師のスキルアップを図るための研修会の開催、看護師・助産師等との多職種連携の推進、保健師長会や保健師教育機関との三団体で人材育成事業に取り組む等、様々な委員会活動を行っている。

しかしながら、北海道看護協会においては、保健師職の加入者数は年々減少し、令和2昨年度末は36.55%と低い現状であった（参考：看護師59.96%、助産師77.1%）。このことについては、全国的課題でもある。

この度、保健師の皆様へ協会への入会状況や協会活動へご意見を聞き、多くの保健師の皆様とともに保健師職能の活動を推進していけるよう実態調査を行い、今後の活動の示唆を得ることとした。

2 調査の目的

保健師の会員減少の実態を把握し、未入会の要因を探るためのアンケート調査を実施・分析することにより、会員拡大に向けた今後の方針を検討する。

また、アンケート調査を契機に、保健師の専門性として職能団体への入会をどのように考えているのかを確認し、協会への入会意義を認識してもらおう一助とする。

3 調査対象：道内に従事する保健師（正職員）・個人会員

4 調査方法：自記式質問紙

保健師が勤務している所属あてに依頼文（QRコードつき）及び質問紙を郵送し、各保健師への配布を依頼した。

5 調査期間：令和3年9月13日から令和3年12月13日

6 回収方法：Web回答を主とした（依頼文のQRコードからWebで、又は質問紙に記入し郵送・FAX）

7 調査項目

- 1) 基本属性：性別、年代、所属、所属における人数、職位、保健師職歴、
- 2) 専門職として意識向上やスキル向上にむけて困ったこと、悩むこと
- 3) 入会状況
- 4) 入会者への質問 (1) 入会のきっかけ (2) 継続している理由
- 5) 退会者への質問 (1) 退会した理由
- 6) 未入会者への質問 (1) 未入会の理由
- 7) 北海道看護協会の職能団体としての活動の認知度
- 8) 北海道看護協会の会員になった際に活用したいことや期待すること
- 9) 保健師の入会動機になると思うこと
- 10) 看護協会への要望

Ⅱ 調査結果

○調査票配布数：保健師が就労している施設等 1,298 か所へ送付し、就業保健師 3,066 人（厚生労働省令和 2 年衛生行政報告例（就業医療関係者）より）へ配布。

○回答数：1,248 人（Web 回答 378 人、郵送回答 855 人、FAX 回答 15 人）

○回収率：約 40.7%

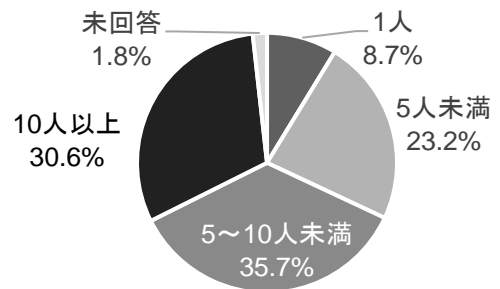
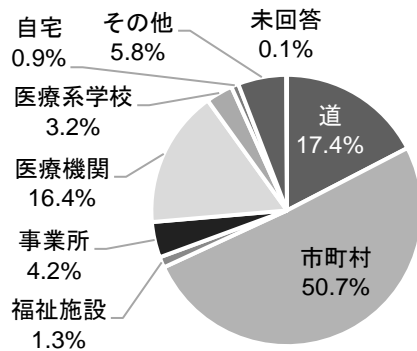
1 基本属性

(1) 性別：「男性」6.2%「女性」91.8%であった。

(2) 年代：「40代」が31.2%と最も多く、次いで「50代」27.0%、「30代」23.3%、「20代」14.3%、「60代」4.1%の順であった。

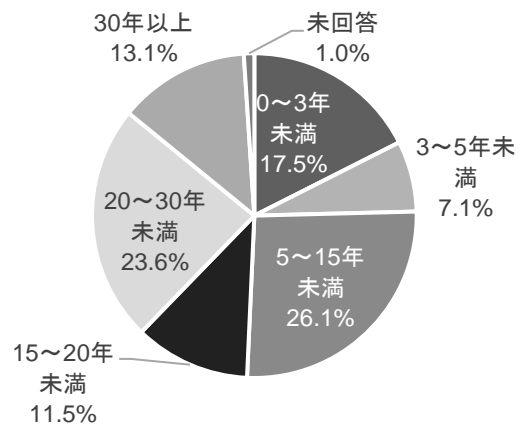
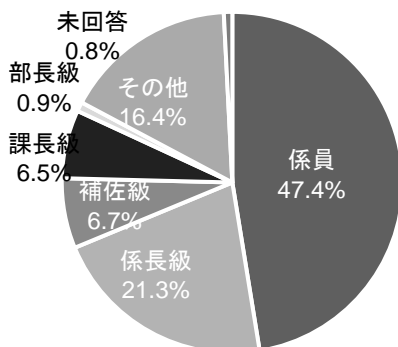
(3) 所属：「市町村」が50.7%と一番多く、次に「道」17.4%、「医療機関」16.4%の順であった。

(4) 所属における保健師の人数：「5～10人未満」が35.7%と最も多く、次に「10人以上」が30.6%であった。



(5) 職位：「係員」が48.8%と最も多く、次に「係長級」21.3%「補佐級」6.7%の順であった。

(6) 保健師職歴：「5～15年未満」が26.1%と最も多く、次に「20～30年未満」が23.6%、「0～3年未満」が17.5%であった。



以上のことから、基本属性としては、年代、所属、経験年数等にある程度偏りなく回答が得られたと考える。

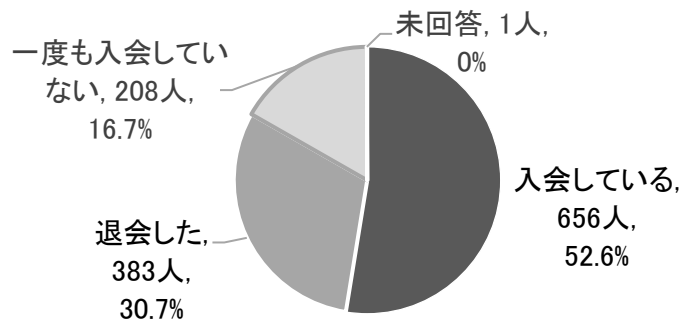
(7) 専門職としての意識向上やスキル向上にむけて困ったこと、悩むことはあるか

- ① 「ある」は80.8%、「ない」は17.8%であった。
- ② 「ある」と回答した方のうち、「解決できている」が4割であった。「解決できていない」と「解決したいが方法がわからない」を合わせると5割であった。
- ③ 解決できていると回答した方：どのように解決しているか（自由記載）
「上司・先輩に相談」「同僚に相談」が多く、職場内での相談体制により解決する人が多かった。

2 入会状況

「入会者」が53%と最も多く、次に「退会者」30.7%、「未入会者」16.7%の順であった。

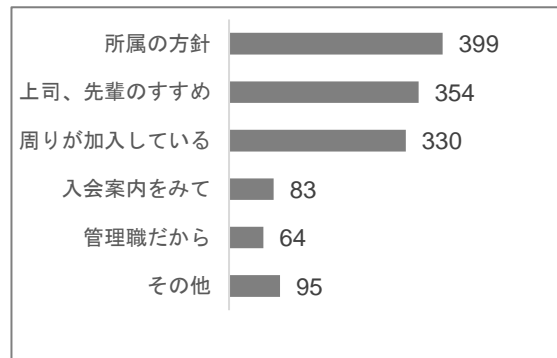
令和3年8月時点の入会者数1,131人の内656人(58%)から回答を頂けた。また、未入会者、退会者を合わせて591人が回答してくれたことは、未加入者の考察に有効と考える。



3 入会者への質問

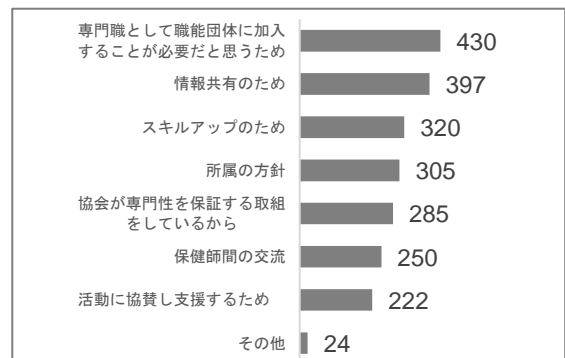
(1) 入会のきっかけ（複数回答） n=656

「所属の方針」が399人と最も多く、次いで「上司、先輩のすすめ」が354人、「周りが加入している」であった。所属内で入会を勧めていることが解る。入会のきっかけには、他者からの影響が大きいと考えられる。



(2) 継続している理由（複数回答） n=656

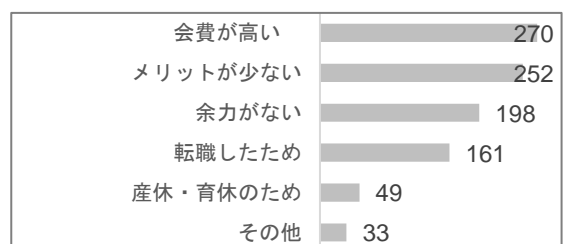
「専門職として職能団体に加入する必要があると思うため」が430人と最も多く、「情報共有のため」397人、「スキルアップのため」320人の順であった。



4 退会者への質問

退会した理由（複数回答） n=383

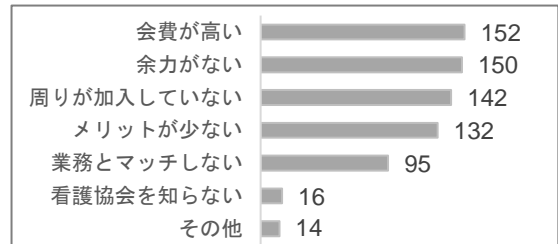
「会費が高い」が270人と最も多く、次に「メリットが少ない」252人、「余力がない」198人の順であった。「転職」や「産休・育休」は少なかった。



5 未入会者への質問

未入会の理由（複数回答） n = 208

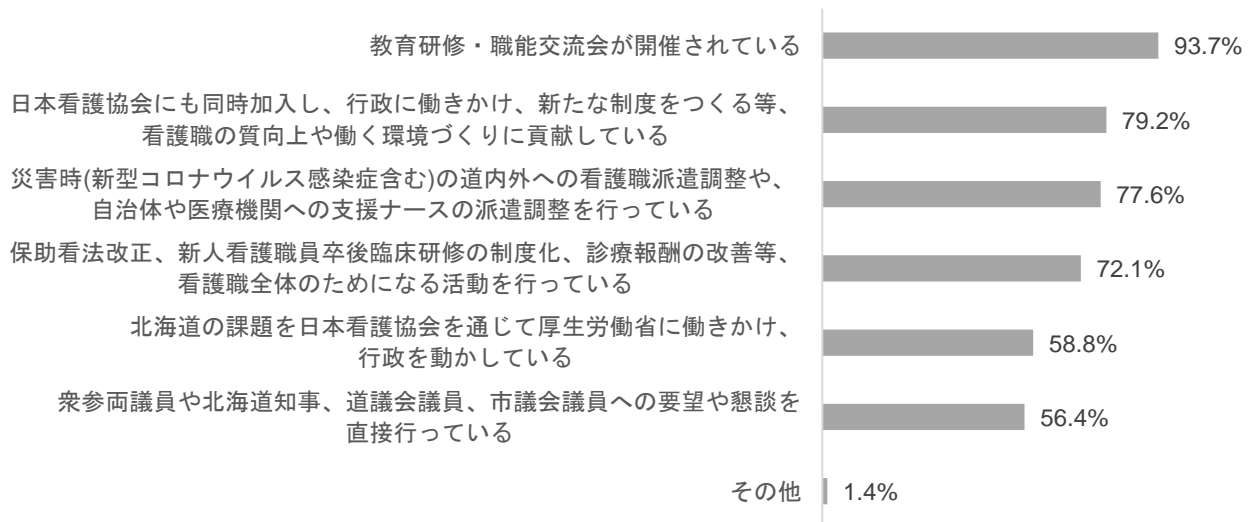
「会費が高い」152人と「余力がない」150人がほぼ同数で上位であった。次に「周りが入会していない」が142人、「メリットが少ない」が132人であった。「看護協会を知らない」は16人と少なかった。



6 北海道看護協会が職能団体として行っている活動について知っていること

(1) 知っている回答した方の割合（複数回答） n = 1,248

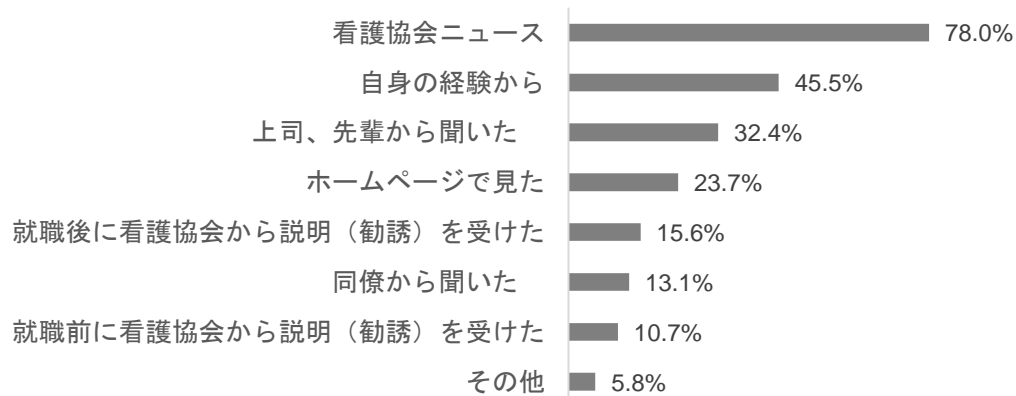
「教育研修・職能交流会の開催」が93.7%と最も多かった。「看護職の質向上や働く環境づくり」「災害時の派遣活動」「法改正、制度改善」は7割以上、「厚労省や議員への働きかけ」も5割以上が知っていた。ほとんどの活動が5割以上認知され、特に教育研修等は9割以上認知されていることが解った。



(2) (1)についてどこで知ったか（複数回答） n = 1,248

「協会ニュース」が78%と最も多く、「協会ニュース」の影響は大きいと考えられる。次に「自身の経験」45.5%、「上司、先輩から聞いた」32.4%であった。

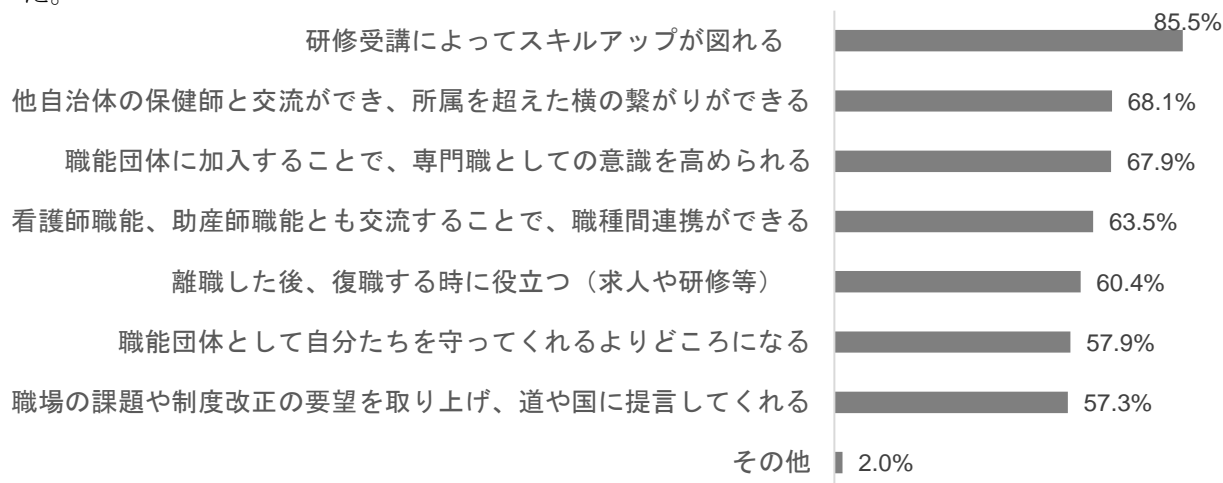
また、「上司、先輩、同僚から聞いた」「就職前後の協会からの説明」など、他者から説明を受けることでの影響も大きいと推察できる。



7 会員になった際に活用したいことや期待すること（複数回答） n=1,248

「研修受講によるスキルアップ」が85.5%と最も多く、期待が高いことが解った。

「保健師の交流」「専門職としての意識向上」「3職能の連携」「離職後の復帰」が6割以上であった。



8 どのようなメリットがあると看護協会入会の動機になると思うか（自由記載） n=449

449人（全体の36%）の方から自由記載を頂けたことは、感心の高さと考えられる。

回答者の内訳から、退会者や未入会者からもご意見を頂けたことは貴重である。

内容としては、「研修」に関する意見が229件（51%）と高く、「会費」に関する意見が93件（20.1%）、「協会活動」に関する意見が31件（11.8%）であった。「メリットを感じない」等の意見は20件（4.5%）であった。

9 北海道看護協会への要望（自由記載） n=196

196人が回答。その内「会費」への要望が69件（35.2%）、「協会活動」への要望が47件（24.0%）、「研修」への要望が39件（19.9%）の順であった。

10 入会、退会、未入会の要因分析のためのクロス集計

入会状況との関連性の分析のためクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。有意差が認められた場合にはどの部分に有意差をもたらしたのかを明らかにするため残差分析を行った。残差分析の結果、5%水準で有意であるといえる調整済み残差が±1.96以上に注目した。なお、各項目において未回答を除き分析を行った。

詳細については、当概要版では省略する。

Ⅲ 調査結果のまとめ

1 入会者の分析結果

- ・入会のきっかけは、「所属の方針や上司・先輩のすすめ、周りが入会している」が多く、他者からの影響が大きいと考えられる。入会継続の理由は、「専門職として職能団体に加入することが必要」との回答が66%と多く、協会の職能団体としての活動を知っている人は入会者に有意に高かったことから、職能団体の必要性の意識が入会に影響していると考えられる。また、研修受講でスキルアップを図ることに期待する人は86%と一番高く、入会者に有意に高かった。
- ・所属別では、道と医療機関で入会者が有意に高く、入会のきっかけは道では上司の勧め、医療機関では所属の方針であり、入会継続理由は道では専門職として必要が一番多く、道・市町村では、保健師間交流が有意に高かった。（市町村は未入会、退会が有意に高かった）

- ・係長職以上の管理職では入会が有意に高く、一人配置では未入会者が少なく、2～4人では入会者が少なく退会者が多い、10人以上では入会者が多く退会者が少ないといえる。
- ・入会者は、①スキルアップ、③職種間連携、④専門職としての意識向上、⑤職能団体としてのよりどころ、⑥道や国に提言、⑦復職に向けた求人や研修に期待する人が有意に高かった。

2 未入会者の分析結果

- ・未入会理由は、「会費が高い、余力が無い、周りが入会していない」が約7割と多く、「メリットが少ない」が6割の回答であった。「協会を知らない」は8%と少なく、知らないから入会しないと言う訳ではないことが解った。
- ・市町村では「周りが入会していない」が有意に高く、周りの影響が大きいと考えられる。（「メリットが少ない、業務とマッチしない、余力がない、会費が高い、看護協会を知らない、は所属による有意差はなかった。」）
- ・係員（スタッフ）は未入会が有意に高かった。役職者の入会率が高いことから、昇任する際に入会を勧めることは有効と考えられる。
- ・協会が職能団体として行っている活動（専門性を保証するための取組み）を知らない人は、未入会者に有意に高かった。活動をどこで知ったかについては、協会ニュースが全体の78%を占めるが、未加入者では有意に低かった。未入会者は就職前の勧誘が有意に高かった（20代の割合が高かった）が、入会に繋がっておらず、入職後周囲が入会していないなどの理由で入会しないのではないかと推測される。就職前の勧誘の継続と、入職後の周知からの勧めが入会のきっかけに繋がると考えられる。協会の活動をどこで知ったかは、単純クロス集計では協会ニュースと上司、先輩から聞いたが多いため、未入会者への協会ニュースの回覧や職場内・研修会での口コミが有効な手段と考えられる。
- ・会員になった際に期待することでは、未加入者は、「職能団体としてのよりどころ、道や国に提言」で「思わない」が有意に高かったことから、未入会者には、職能団体としての意義を強調して周知することが必要と考えられる。
- ・年齢では、未入会者は、20代、30代が有意に高く、入職時の周囲の働きかけが影響を与えられと考えられる。未入会理由で会費が高いと回答した年代別の割合では、各年代とも約7割であり、20代に多い特徴は見られなかった。
- ・「会費が高い」が一番多かったという結果であった。会費値下げのニーズがあることについて、看護協会に伝えていく必要がある。また、会費を負担して、職能団体の存続や活動を支えたり、参加したいと感じられるよう、職能団体の意義を明確に伝えていく必要がある。

3 退会者の分析結果

- ・「会費が高い」と回答した年代別では、数的には40、50代が多いが、割合はどの年代でも7割前後で特徴はなかった。
- ・年代別では40、50代の退会者が有意に高かった。
- ・所属別では市町村に退会者が有意に多く、「余力がない」を理由としたのは市町村で有意に高かった。
- ・年代別の退会理由の傾向では、40代は、「余力がない」「会費が高い」が多く（いずれも有意差なし）、子育てに多忙、責任ある立場で業務遂行、教育費がかかる年代だから、役員がまわって来るのが負担、などの理由が推察される。20代、30代の退会理由は「転職」が多かった。40代で、世代的に余力がなく退会した会員が、再入会しやすい又は再入会のきっかけになる取り組みが必要と考える。
- ・会員になった際に活用・期待したいことでは、「スキルアップ、職種間連携、専門職としての意識向上、職能団体としてのよりどころ、道や国に提言、復職に向けた求人や研修」について、思わないと回答した割合が有意に高かった。メリットを感じなくなったため、退会したと推察される。

4 アンケートによる看護協会の役割や職能団体への入会意義についての理解や周知について

今回、アンケート調査を契機に保健師の専門性として職能団体への入会をどのように考えている

かを確認し、協会への入会意義を認識してもらい一助とすることを目的の一つにしていたことから、結果分析を行った。

(1) 看護協会の役割や職能団体への入会意義を理解しているかについて

設問8「北海道看護協会が職能団体として行っている活動について知っていること」を回答してもらった結果から、ほとんどの活動が5割以上認知され、特に「教育研修・職能交流会の開催」は9割以上認知されていることが解った。

「入会者」ではすべての項目で知っているが有意に高く、「未入会者」では有意に低かった。

入会してから活動を理解するのかもしれないが、その活動が十分に実感されないと退会につながることもあり得る。まずは「未入会者」に各種取組を通じて看護協会の活動を知ってもらうことや、研修以外に職能団体としての活動の重要性を周知することで意義の理解につながるのではないかと考える。

(2) アンケートを通じて看護協会の役割や職能団体への入会意義が周知できたかについて

今回のアンケートを行う際に北海道看護協会のパンフレットを同封し、周知に努めたことで、協会の役割を知ってもらう機会になったと考える。

また、入会、未入会にかかわらず多くの回答を得られ、改めて意義を聞くことは、看護協会の存在や意義を周知するひとつの機会となったと同時に、協会への要望や意見を自由記載で聴くことができ、保健師としての思いを吸い上げる機会になったと思われる。

アンケート調査以外にも、看護協会が、日頃の活動の中で会員や現場の意見を吸い上げ、活動に生かす役割があることを再周知する必要がある。

なお、当該アンケート実施後の保健師の入会状況については増加に転じている（北海道内の保健師会員 R3.4は1024人、R4.4は1043人で19人増加）。アンケートを行ったこと自体が多少なりとも周知につながったと考える。

IV 今後の取組の方向性について

1 今後の取組の方向性について

○今回のアンケート結果から、入会のきっかけには周りの影響が大きいことと、職能団体の意義についての理解が影響していることが解ったことから、統括保健師や管理職の立場にある保健師が、看護協会や職能団体の意義について理解し、周りの保健師に伝えていけるような取組を行っていく。

2 次年度に向けた取り組みについて

- 保健師に特化したPRリーフレットを作成し、活用方法を検討する。
- 統括保健師や管理職が職能団体の意義について理解し、周りの保健師に説明していくよう啓発する。
- 現在実施している看護協会の取組（学生向け説明会）や、各職場での新任期向けの入会説明を継続していく。
- 報告書を支部へ配布し、各支部で可能な取り組みを検討し、取り入れていただく。
- 次年度以降については、今回検討した結果を基に、保健師職能委員会として経年的に取り組んでいく。

3 その他 入会促進の方策案について

入会促進のための方策案について検討した詳細については、当概要版では省略する。

V おわりに

保健師は、新型コロナウイルス感染症対応を含め、2040年に向け新たな課題に向け対応していくことが求められている。しかし、この新型コロナ対策を踏まえ、新たな課題にも対応していくためには多くの問題が山積みになっているのも事実である。

その問題を解決し次のステップに進めていくためには、個人、組織だけでは限界もあり、職能団体として解決に向けた検討を進めていくことが求められる。例えば保健師の増員はもちろん、今後起こり得る北海道の過疎化の進展に向けた新たな体制整備、医療計画の整備などの解決への取組と同時に、国への要望も不可欠になってくると考えられる。

今後は特にその現状を保健師1人1人が認識し、将来を見据えた活動へと進めていくことが求められている。実際に、新型コロナウイルス感染症の対応のため、日本看護協会が国への保健師の増員を要望し、900人の予算措置がされたところである。

その方針を各自治体の統括やリーダーが理解し、職能全体として取り組むことで人々の健康な生活を実現し保健師としての使命を果たしていくことが、将来の保健師の専門性の維持・向上につながると考える。

今回のアンケートでは、会員・非会員両方から多くの貴重な意見をいただいたことに、深く感謝申し上げます。協会で行っている活動については、協会ニュースや経験から理解されている人が多い一方で、会費が高い、余力が無い、メリットが少ない、業務とマッチしない等の理由で、未入会者や退会している方がいることが解った。また、アンケートという形ではあるが自由記載もあり、それぞれの保健師の思い等の内面的な実態を理解する機会にもなった。今後の看護協会の果たす役割機能を考え、今後の方策を共有する新たな一歩になると考える。

中でも入会理由では、周りの影響が非常に大きな要因となっていた。まずは保健師のリーダーたちが、将来の保健活動を語り、そのための職能団体の意義について説明をしていくことが重要である。

看護協会の意義を理解してもらい入会促進を図るためには、まずは保健師リーダーたちからのアプローチが意欲の向上へつながると考えられる。自分たち保健師が、将来このままでは地域の課題解決に向けた取組が困難になることを認識し、そのために動き出すことが入会のきっかけになるのではないかと考える。

また、個人レベルのメリットでもある研修の充実も重要であり、新人期、中堅期、管理期の保健師がレベルアップのための研修の機会を得て、その機会を入会のきっかけとしていくことや、保健師の専門性を担保する看護協会活動の意義を実感してもらえる事業企画が必要である。管理者である保健師からの動機づけを行い、web研修の手法等を活用し、全道の保健師が平等に受講できる機会の担保が欠かせないと感じる。

今回入会状況に関する調査を実施し、入会・未入会要因・退会要因などが明らかになった一方、日ごろ業務に追われ忙しく、将来を見据えての保健活動の整備を検討できない状況であればあるほど、看護協会を積極的に活用していただくよう、今回の調査結果を生かして活動内容や職能団体としての意義を共に確認し合いながら、保健師の専門性を醸成させていくよう活動推進を重ねていきたい。

謝辞

この度の調査にご協力頂いた、道内の看護協会会員、非会員の多くの保健師の皆様、ならびに結果分析にご尽力いただいた北海道科学大学公衆衛生看護学専攻科講師水野芳子様へ心から感謝を申し上げます。

令和4年度北海道看護協会保健師職能委員会メンバー		
委員長	石川 奈津江	札幌市白石区保健福祉部
委員	近藤 明代	札幌保健医療大学保健医療学部看護学科
	坂本 佳子	札幌市東区保健福祉部保健福祉課
	佐藤 聡子	空知総合振興局保健環境部滝川地域保健室企画総務課
	佐藤 由香里	石狩振興局保健環境部千歳地域保健室企画総務課
	澤田 明美	札幌市保健福祉局高齢保健福祉部介護保険課
	高橋 総恵	北海道保健福祉部感染症対策局感染症対策課
	松野 由紀子	北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
※五十音順	宮武 千恵	秩父別町役場